

大和ハウス工業株式会社 代表取締役会長兼CEO 樋口武男氏に聞く

1963(昭和38)年、大和ハウス工業は大阪駅西口に陸橋を寄贈し、これが日本初の鋼管併用による歩道橋となった。創業者の石橋信夫氏が、当時、交通戦争と呼ばれるほど急増する交通事故を憂いてのこと。「何をやったら儲かるかではなく、何が世の中の役に立てるか、喜んでもらえるかを考えて事業を興すべき」が信条の石橋氏は、一代で同社を1兆円企業へと成長させる一方、社会貢献活動も積極的に行ってきた。そうした石橋イズムを継承する樋口武男会長に、同社におけるメセナ・社会貢献活動への思いを伺った。

創業者の精神を受け継ぎ 社会の公器として社会貢献活動を推進

国内外でさまざまな社会貢献活動

創業者の石橋相談役は、いつも「会社は社会の公器である」と言っていました。それは、当社および当社グループ全従業員とその家族の生活を支えることであり、同時に大和ハウス工業として、人々に喜ばれる事業を通じて社会に貢献していくことです。私は、そうした創業者の思いを受け継いでいくことが使命だと思っており、会社としてできる限りの社会貢献活動を行っています。

例えば最近では、カンボジア支援プロジェクト(2008年～)として、現地で井戸や小・中学校の建設を支援しました。また、

去年は、当社が保有していた茨城県高萩市の山林82万坪を、子どもの自然体験や環境教育の一助にもらうべくボーイスカウトの野営地として無償譲渡したり、来年には、東京大学(本郷キャンパス)にユビキタス研究の拠点施設「東京大学大学院情報学環 学術研究棟」を建設して寄贈します。

「モーレッツ企業」のオーナーが託した思い

石橋相談役は、亡くなるまでの4年間、能登・羽咋の山荘で療養生活を送っていました。その間、私は毎月ご報告に行き、



会社や事業のことなどさまざまな話をしました。あるとき石橋相談役は、「いま社会が、国が、何を求めているか。遊びから芸術・文化までよく考えないと、大和ハウスは潰れてしまう」と話され、私は、「モーレツ企業」と言われた大和ハウス工業の創業者が、「芸術・文化」にまで言及されたことに、強く心が打たれました。

当社は、芸術活動の支援も積極的に行っています。そのひとつに、大阪4大オーケストラのひとつである大阪交響楽団(旧:大阪シンフォニカー交響楽団)への支援があります。同楽団の理事長だった井植敏三洋電機元会長に頼まれて、2006年から後任に就いているのですが、これには特別な思いがあります。つまり、私を事業家として育ててくれた石橋信夫は、かつて若手経営者仲間だった佐治敬三さん(元サントリー会長)や山田稔さん(元ダイキン工業会長)らとともに、世に言う「井植学校」の門下でした。私は井植敏さんから大阪交響楽団の支援を頼まれたとき、井植歳男さん(三洋電機創業者)から石橋信夫へ頼まれているのだと感じ、快くお引き受けしたわけです。

気負いなく芸術・文化に接する

2006年、本社で大阪交響楽団による初のロビーコンサートを開きました。私は、その記念にタクトを振ったのですが、とても緊張しました。実を言うと、私は小学生の頃から音楽が大の苦手科目でした。10年ほど前の同窓会でカラオケマイクを握ったら、当時の担任の先生が「樋口君、あんた歌えるの」と言われたほど。そんな私でも、普段から芸術・文化に馴染むようになってきたことで、趣向が変わってきたように思います。「大エルミタージュ美術館展(2006年)」を初めて特別協賛したとき、ある人から「音楽や絵画などは、頭ではなく心で感じれば十分。“いいな”と思えば、理解しているということ」と言われ、それ以来、自分なりに芸術・文化を楽しんでいます。

「大エルミタージュ美術館展」は、当時、同美術館の所蔵品が初めて海を渡ったとして、マスコミの注目を集めました。記者会見で「どれだけの資金をサポートしたのか」と質問を受けたのですが、絵画の門外漢である私に質問が回ってくるとは思っていなかったので準備をしておらず、感じたまま「芸術や文化の価値はお金で計れるものではないのではないですか」と答えました。これには主催者の氏家齊一郎さん(日本テレビ会長・当時)が、とても感激し

て下さいました。

芸術・文化関係では、大エルミタージュ美術館展やウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の日本公演など、継続的に行っているものも多くあります。2007年には、当社の総合技術研究所(奈良市)内に「石橋信夫記念館」を建て創業者を顕彰していますが、以来毎年、各界の有識者による「石橋信夫記念館文化フォーラム」を開催し、抽選で選ばれた一般の方々を東西の本社ビルにお招きして好評をいただいています。

サステナブルな企業であるために

近年は環境問題に対するCSR活動も積極的に行っています。昨年は、新大阪駅中央口に草花に囲まれたウェルカムガーデン「大阪花屏風(大和リース株式会社)」をつくったり、今年6月には安藤忠雄さんと協力し、大阪マルビルの1階から6階までを緑で覆う「都市の大樹プロジェクト」を始動しました。大阪は都心に緑が少ないといわれますが、こうした活動や想いが広く市民に伝播してほしいと思います。中之島の護岸壁を緑化すれば、大阪のイメージがもっと良くなるでしょうね。

当社は創業者の夢である「創業100周年で10兆円の企業群達成」に向けてチャレンジしています。現在、当社グループ全体の年商は2兆円を超えていますが、これは石橋信夫がその基礎を築いてくれたおかげです。私はその恩を忘れず、「会社は社会の公器」「社会の役に立ち、喜んでもらえる事業」という創業者の精神を継承し、いかにしてその夢を実現するかを日々考えています。それを実践してこそ、当社が100年、200年と存在価値を持ち続けるサステナブル(持続可能)な企業になるのだと思っています。

樋口武男氏

1938年兵庫県出身。1961年関西学院大学法学部卒業、1963年大和ハウス工業入社、1984年同社取締役、2001年同社代表取締役社長を経て、2004年より現職。大阪商工会議所副会頭(2005～2013年)、住宅生産団体連合会会長(2009年～)。著書『熱湯経営「大組織病」に勝つ(文春新書)』『先の先を読み複眼経営者「石橋信夫」という生き方(文春新書)』『私の履歴書 凡事を極める(日本経済新聞出版社)』

大和ハウス工業株式会社

本社：大阪市北区梅田 3-3-5 / 東京本社：千代田区飯田橋 3-13-1
創業 1955 年。建築、都市開発、環境エネルギー、農業など数々の事業を展開。資本金 1616 億円(2013 年 8 月)、売上高(単体) 1 兆 2388 億円(2013 年 3 月期)、従業員数 13,623 名(2013 年 4 月 1 日現在)。



石橋信夫氏(1921～2003年)



大和駅前交通安全陸橋(1963年/大和駅前)



大エルミタージュ美術館展(2012年/東京・国立新美術館)(名古屋美術館、京都市美術館でも開催)



大阪マルビル緑化プロジェクト(2013年6月/大阪市北区)



カンボジア(コンブルグ村)での井戸建設プロジェクト(2008年)



大阪シンフォニカー交響楽団(現・大阪交響楽団)ロビーコンサートで指揮を執る樋口会長(2006年)

写真提供：大和ハウス工業株式会社